

Dialogue 9 Asking about someone's experience(s)

-したことがあるかたずねる-

ダイアログの和訳と解説

口語訳

Roles: Kei= K, Heinrich= H

Kei is speaking with Heinrich about going to Tokyo Dreamland.

K: ①Where would you like to go?

H: ②I'd like to go to Tokyo Dreamland.

K: ③Oh, Tokyo Dreamland.

H: ④Have you ever been there?

K: ⑤Yes. ⑥I've been there four times.

H: ⑦Four times? ⑧That's a lot!

K: ⑨Well, one of my classmates has been there more than twenty times.

H: ⑩That's unbelievable! ⑪You'd get bored!

K: ⑫Not really. ⑬It's fun every time.

H: ⑭Then I must go at least once.

圭はハインリッックと東京ドリームランドに行くことについて話しています。

ケ：①どこに行きたい？

ハ：②東京ドリームランドに行きたいな。

ケ：③ああ、東京ドリームランドね。

ハ：④行ったことがあるの？

ケ：⑤ああ、⑥4回行ったことがあるよ。

ハ：⑦4回？ ⑧そんなに！

ケ：⑨でも、クラスの友達の一人居は20回以上行ったことがあるんだって。

ハ：⑩信じられない！ ⑪あきちゃうでしょう！

ケ：⑫そうでもないよ。 ⑬行くたびに楽しめるよ。

ハ：⑭それじゃあ僕も少なくとも一回は行かなくっちゃ。

Target Expressions —経験をたずねる表現—



このダイアログのポイントは「～へ行ったことがある？」って質問する時の聞き方よ。

☆ 「～へ行ったことがありますか？」と経験を尋ねる時は“Have you been to...?”を使います。...には場所(名詞・固有名詞・副詞)が入ります。

例：Have you been to Tokyo Dreamland?

→Yes, I have been there./No, I have not been there.
と答えます。

(口語ではしばしば“Yes./No.”のみ、あるいは“Yes, I have./No, I have not.”といった短い返答や、“I’ve been there./I haven’t been there.”などの縮約形が使われます。口語ではこれらによりくだけた表現を使うほうが一般的です。)



Kei's Advice

～なぜこう訳すの？

逐語訳

①②“I would like to...”: 「～したいものです」丁寧な願望を表します。口語ではしばしば“I’d like to”と略されます。相手の希望を尋ねるには“Would you like to...”を用います。ここでは友達同士の会話なので通常の(丁寧ではない)口調に訳しています。

⑧⑩“That’s...”: 驚きを表しています。つまり“That’s a lot.”「それはたくさんだ！」→「そんなにたくさん！」→「そんなに！」となります。

⑨“Well”: 通常は驚き、疑い、安心、あきらめ、譲歩などを表します。他には話をまた続けたり、用件を切り出す時に用いられます。ここでは「でも、しかし」という意味になります。このように口語ではしばしば“but”の代わりに使われます。

⑪“You’d...”: “You would...”の縮約形です。「君は～するだろう」と訳します。

⑫“Not really”: この“really”は否定文で表現を和らげる働きをします。直前の発語に対して「本当にそういうわけではない」→「そうでもないよ」と答えています。

⑬“It’s fun every time.”: 「毎回楽しい」つまり「東京ドリームランドに毎回行くたびに楽しい思いができる」→「行くたびに楽しめる」となります。

⑭“at least”: 「(最も)少なくとも」。通例数詞の前に用います。

ケ: ①君はどちらへ行きたいのですか？

ハ: ②僕は東京ドリームランドに行きたいです。

ケ: ③ああ、東京ドリームランド。

ハ: ④君はこれまでにそこに行ったことがありますか？

ケ: ⑤はい。⑥僕はそこに4回行ったことがあります。

ハ: ⑦4回？⑧それはたくさんです！

ケ: ⑨えーと、僕のクラスメートの一人はそこに20回以上行ったことがあります。

ハ: ⑩それは信じられないです！⑪君は退屈するでしょう！

ケ: ⑫本当にそういうわけではありません。

⑬それは毎回楽しいです。

ハ: ⑭それなら僕は少なくとも一回は行かなければならないです。

☆ 経験を尋ねる時は“Have you + 過去分詞 ?”を使います。

例: Have you seen that movie?

(君はあの映画を見たことがありますか？)

☆ 「行く」=“go”から「行ったことがある」=“have gone to”と覚えてしまいがちですが、“have gone to...”は通例「～へ行ってしまっ(て戻ってこなかった)」という意味になります。

つまり動作の完了・結果を表します。

例: He has gone to America.

(彼はアメリカに行ってしまった。)

*ただし、アメリカ英語では“have gone to”が経験を表す場合に用いられることもあります。

他の経験を尋ねる時も“Have you...?”を使うんだね。



Target Expressions

—経験をたずねる表現—